

JHLA のチャレンジ

—病院図書館室担当者のスキルアップのために

日本病院ライブラリー協会

大沼由紀子、吉富まち子、有田由美子、長谷川湧子、直江理子

【目的】病院図書館室担当者は、病院という臨床が主となる医療従事者へのサービスを基本とする。最近では、患者図書サービスなど一般市民向けへの医療情報提供をサポートすることも要求されてきている。JHLA では、時代のニーズに応えたさまざまな活動を展開し、医療の現場における様々な局面において柔軟に対応できる病院図書館室担当者育成を目指している。

【活動内容】1976年に設立された病院図書館室研究会は、2006年に日本病院ライブラリー協会(JHLA)と名称を変更し、会員約300名を数える病院図書館室の全国的組織へと発展した。全国へ拡大している会員への情報提供として、機関誌「ほすびたる らいぶらりあん」の発行や会員専用ホームページを開設し、会員相互の緊密な協力体制を推進している。また、病院図書館室の質的向上を目的とし、最新情報を得るためのノウハウや技術を習得する研修会を毎年2回開催。参加者が年々増え続け、最近では100名を越えるようになった。2008年9月にデスクマニュアルを全面改訂した「病院図書館室デスクマニュアル—スキルアップのために」を7年ぶりに発行。安全管理やインフォメーションリソース、機能評価、ISO取得、臨床研修必修化など時代の変容を反映したコンテンツを盛り込み、病院図書館室担当者の右腕となるマニュアルが完成した。冊子だけでなくCD-ROM版を発行し、すぐに使えるテンプレートやカラー写真など実用性も備えた仕様としている。発売と同時に200部を突破し、好評で売れ行きも順調である。さらに、患者図書サービス支援、臨床研修支援では、会員内外からの問い合わせにも対応し活動の場を着々と広げている。また、JHLA機関会員を対象としたコンソーシアムにも力を入れている。

【まとめ】患者中心の医療が求められるなか、医療の安全性や質の確保が重要性を増し、これらを支える病院図書館室の認知度と必要性が高まってきた。「病院図書館室」という専門性に特化した図書館室担当者への更なる支援が求められており、その役割を担うのはJHLAの活動においてほかならない。年に2回の研修会に加え、2009年11月には、全国の病院図書館室担当者を対象とした新人担当者セミナーを実施することが決定した。臨床現場で役立つ医療情報を取り扱うプロを育てるための教育支援活動を展開していく試みである。